

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170202261		
法人名	社会福祉法人パートナー		
事業所名	グループホーム ハートの家式番館 (1階)		
所在地	札幌市東区東雁来9条1丁目8番5号		
自己評価作成日	平成22年11月1日	評価結果市町村受理日	平成23年3月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigoioho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170202261&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成22年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

年度初めには町内会総会に参加させて頂き、地域の方々にグループホームについての理解を深めていただいたり、祭りや季節行事等にご近所の方々をご招待するなど地域との繋がりを深めていけるよう努力しているところです。年々少しずつではありますがご近所様との交流も増え挨拶をしてくださる方や気軽に遊びに来てくださる方もできるようになりました。グループホームや認知症といったものが特別ではなく、地域によって支えられるだけではなく、入居者様が普通にいらしている姿を見て頂き、将来の安心に繋げることができるようなれたら、と考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は身体的に機能が低下し、車椅子使用者、また人工透析をしている方、人工肛門など医療的支援を必要としている利用者もありますが、ホームとして職員の研修を充実し、対応について個別に支援をしています。さらに、法人としての取り組みも積極的で、健康管理のマニュアル作りなど充実しています。避難訓練は、法人としては隔月に、ホームとしては毎月昼夜間想定で実施し、利用者及び職員が日常的に避難が出来る体制を作っています。また、消防署や消防設備業者の応援をいただいています。専門学校の実習生を受け入れ、職員のレベルアップに繋げています。地域との連携も職員全員で取り組み、地域を支え、支えられる関係を築くという理念に添った運営に努力しています。法人全体の職員研修が充実していて、マニュアルなど書類の整備も整い、利用者支援に反映されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場 がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしてい る (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生き とした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出か けている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむ ね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不 安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービス におおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔 軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	近所のスーパーや公園等へ出掛け、地元で生活していることを充実して頂いている	地域密着型サービスをいつも念頭におき、地域と良好な関係を持ちながら、ホームの理念を確認して実践に繋げています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の会合に参加したり、ホームで行われる行事（餅つき、地域ふれあい祭り、避難訓練の参加等の案内状を出し、交流を深めている	利用者が外出困難な場合、ホームへ地域の方々を受け入れ、暮らしの中で交流をしています。毎月定期的にダンスのボランティアが訪れ、利用者と職員の励みになっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム内行事の中で直接接して頂きながら理解を深めていただいたり、近隣住民の方々との交流の中で接し方などについて話し合っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長や、防犯部長、ご家族に参加頂き、行事報告等を説明しながら、ご意見を聞かせていただき今後の活動に取り入れるなどし繋げている	ホームのサービスについて報告し、幅広い分野から出席している委員から、意見を聞き話し合い、新たな試みに取り組んでサービス向上に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の保護課の担当者様とは月に1回程度お会いし（窓口を訪問）し、受診の際の相談や生活費の相談等を行っている	区の保護課との連絡が多いですが、ホームの現状など報告し、相談をしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内勉強会や日々の申し送りの中で言葉の虐待や身体拘束にならないような支援方法を話し合い、実践している	ホーム内にとどまらず、外部研修や法人内の研修など、職員は日々学びながら、身体拘束委員会を作り、身体拘束をしないケアのあり方を話し合っており、正しく理解するように努力しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内にて高齢者虐待防止法に基づいた資料や事例を基に研修会を行っており、ホーム内勉強会へと結び付けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会や勉強会を開き、学ぶ機会を作れるよう検討している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際等は文書だけではなく口頭でも説明を行いながら納得して頂いた上で署名していただいている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内にご家族様からの意見箱の設置や苦情等の問合せ先が記載されたポスターを掲示し、意見を反映できるよう努めている	家族の面会時、また、運営推進会議など意見が言える場面を多くしています。些細な事柄にも、運営に活かすように取り組んでいます。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや会議などの集まり、日々の業務の中で職員からの意見を聞き必要に応じて話し合いや管理者との面談を行っている	職員の人間関係は良好で、会議の席上や日頃の業務の中でも話し合いをし、運営に活かした取り組みを実践しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業時間についての現場からの意見を理事会で検討したり、設備の修繕等に関しても積極的に聞き入れている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加予算を組み込み、多くの職員が力量に応じたスキルを身につけることができるよう努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同区内のグループホームとの連絡会や研修会等に参加できるよう取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントシートを作成しながら困っている事や要望等を確認し、介護計画と関連させ、安心へと繋げている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始時にご家族様からアセスメントシートの中に記入頂き、不安や要望等を伺っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス計画の中の課題を短い期間で区切り、ご本人とご家族のニーズと行われているサービス計画との評価をしながら確認している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできる能力を見極め、生活の中のできる部分は職員と共に行っている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的又は必要に応じて面談の場を設け、ご本人のニーズやご家族様と共にできることはないか等、話し合っている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人の方々には積極的に来訪して頂けるよう呼びかけ、長年続けてきた習慣が継続できるよう支援している	利用者の人間関係を大切にし、馴染みが継続するように支援しています。地域の方々も来訪され、地域の中で利用者が相互に安心して過ごせる場所になっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間等の共有空間の他に利用者同士がゆっくりと会話等ができるようなスペースも設け自然に会話等ができるような空間作りに努めている		

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方のキーパーソンの方とお会いし、法要などに出席している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人との対話やご家族からの情報等を元にどのように暮らしていきたいかを職員間で検討し、ご本人主体の生活ができるよう支援している	介護計画を作成するにあたりセンタ方式を用い、思いを把握することに努力し、家族や関係者からの聞き取りをこまめにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報提供書等を参考にこれまでの生活習慣を極力崩さないような支援に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌や水分・排泄表、コミュニケーションの中から日常生活の把握に努めている。又、小さな変化も見逃さないよう申し送りでの周知も行っている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行い職員同士で意見を出し合い現状に合ったケアプランを作成している	日々の介護日誌の記録から、介護計画の実践・評価を職員間で話し合い、利用者の現状にあった介護計画の見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人一人の表情や気持ちの変化が分かるような記録の記入を心掛け、ケアプランにも反映されている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者一人一人のニーズに合わせ、買い物、ドライブ、外食等の機会を多く取り入れるよう心がけ支援している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによるダンスや行事の際は地域の方の音楽鑑賞や演舞等を楽しめるよう支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の定期受診、月2回の往診により担当医との連携をとっている。また緊急時には連絡できる体制も整っている	利用者とかかりつけ医との関係を断ち切らずに家族の希望も重視し、一人ひとりが、安心して医療受診できるように支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ病院や往診の看護師等に日常の変化の様子や相談等を行い適切な受診や看護ができるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際はホームからのフェイスシート等の情報を提供し、入居者を理解していただけるよう努力している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に対しての方針やガイドラインを設け、ご家族とも話し合えるよう取り組んでいる	重度化や終末期の対応について、日頃から家族と話し合い、双方納得のいく方策を進めています。また、終末期のマニュアルを作成して、法人全体として研修し取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修等により応急救護の訓練を行っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署に協力して頂き2ヶ月に1回、避難訓練を行っている。又、地域の方にも避難誘導に加わって頂くなどご協力頂いている	消防署や消防設備業者の協力で、定期的に昼夜間想定災害訓練を行い、地域の協力が得られる体制を作りあげています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を尊重した言葉掛けの配慮や記録の管理等においても人目につかない所に置く等注意している	プライバシーや人権を尊重したケアを心がけ、排泄ケアなどの言葉かけや記録の管理にも注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物や外出、入浴等、希望をできる限り尊重できるよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	月や週、一日ごとのスケジュールは決まっているが、希望に合わせて食事や入浴時間を変えたり、買い物やドライブなどに出掛けたりしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの衣類をご家族から持ってきて頂いたり、訪問理容を理容し希望に添えるよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な調理（盛り付け）食器の準備や後片付け等、意識的にお願いしているが、いつも決まった方になっている	献立は法人で一括作成ですが、食品の購入から調理、配膳など、利用者と共に食事が楽しみとなるように、配慮しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表の活用により、一日の水分量を確保するよう努めている。又、食事量（水分量）に制限のある方については主治医との連携を図っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや一部介助等、能力に応じた口腔ケアを支援している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間ごとの声掛け、誘導等によりできる限り失禁が減るように支援している。又、トイレの場所が分かりやすいようにトイレの表示を大きくしている	オムツ使用者、トイレ誘導時など、プライバシーに配慮して、排泄の介助をしています。介護計画に盛り込み、個別に把握して支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できる限り自然に排泄できるよう、水分や食事摂取量等のチェックを行っているが、一定期間以上便秘になった場合に限り坐薬や下剤を使用している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回程度の入浴を目標にしているが、入浴を嫌がられる事もある。又、入浴時間等は個々の希望通りには行かずどうしても施設の都合になってしまっている	利用者の希望に添うように、同姓介助や足浴を好む利用者には、満足のいく入浴方法で支援しています。介護度の高い場合は、2人体制で入浴介助を実施しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は安眠できるように、トイレ以外の電気は消灯し、騒音にならないよう努力している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医との連携や薬剤師への質問などにより、薬の理解を深めようとしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム内での生活の他にも、買い物やドライブ等、外出の機会を増やし張り合いのある日々を過ごせるように努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出のスケジュールを予め用意しておき、それに沿って支援している（その日の希望を聞いて直ぐに実施することはできていない	家族の協力で、温泉一泊旅行を実施しています。近所の大手スーパーで買い物や外食など、外出の機会を多く取り入れ、個別の外出の支援をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は職員が行っており、物品を希望し購入される際にはお預かりしているお金で支払いしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛ける場合、その旨をホーム長へ確認した後、本人が直接、又は職員が取り次ぎ支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快や混乱は見られないが、車椅子利用者や歩行器を使用されている方にとっては空間が狭く不便を感じることもある	独身寮を改装したホームのため、入り組んだ構造で見通しが悪いところもありますが、廊下が広く、ゆったりした点もあります。しかし、壁面が白一色で、飾り気がなく家庭的な雰囲気が不足しています。	利用者の写真は掲示されていますが、カレンダーや時計など、さらに工夫され、温かい落ち着いた居場所となるよう検討を期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	以前より一人になれる空間作りを考え、居間とは別の場所にテーブルを設置したが、使い方などはもっと工夫していかなければならない		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の慣れ親しんだ家具やご家族の写真の置いたり等の工夫をしている	入口に表札をつけたり氏名を掲示して、個性のある居室に、馴染みの調度品を置き、好きな縫い物をしている方もいて、落ち着いた暮らしを続けています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	声掛けや見守りを強化し、できるだけ自立できるような支援を心がけている		